

「聖杯」の定義

既に外伝で幾度か記しているように「聖杯」は以下のように定義できるでしょう。

- 1 キリストの遺物（遺体の一部）を載せた物質としての杯。
- 2 ユダヤ王の血流をその身に受けたマグダラのマリア（その遺体）。
- 3 キリスト（ユダヤ王）を生みだす器としての知識文献。
- 4 ユダヤ王とマグダラのマリアの血脈子孫。

ロスリン礼拝堂の地下構造物の中にしつらえられた至聖所に納められていたのは当然ながら聖杯の①、②、③となるでしょう。

ただし、①について。

基本的にはキリストは男性原理であり、キリストを受け入れ包み、且つキリストを生みだす器の「聖杯」は女性原理です。そこで定義上は①の場合はダビデ王の血統子孫で、マグダラのマリアパートナーだった男性の首を載せる杯（大皿）が「聖杯」とはなりません。

しかし本当に重要なのは無論「キリストの首」そのもので、一部の者たちの間では「その首を所持する者は世界を支配する」とささやかれもしてきたのです。この「キリストの首」はマグダラのマリアが生前中は所持していた模様です。

従って、マグダラのマリアの死亡後は、マグダラのマリアの遺体と「キリストの首」はともにあって、「聖杯家」の誰かが所持していたのでしょう。

またテンプル騎士団崩壊後は、現在まで聖杯の④も含めて、聖杯①、②、③はシオン修道会によって守られてきた模様です。この意味でも、シンクレア家のテンプル騎士団の一統は、シオン修道会と協働してきたと見られます。